



# 立野

練馬区立立野小学校

平成26年 12月号

<http://www.tateno-e.nerima-tky.ed.jp>

## 朱に交われれば赤くなる

校長 岡本 昌子

先週末に、実施いたしました学芸会には、地域、保護者の皆様にも多数ご参観いただきました。3年に1度の大きな行事ということもあって、子供たちは“やる気パワー”に溢れ、特に最後の3日間(リハーサル 学芸会1日目 学芸会2日目)に見せた子供たちの演技や歌声の伸びは目を見張るものがあり、ずっと見守ってきた私たち教員にも、大きな感動を与えてくれました。これも、保護者の皆様の衣装協力や体調管理、子供たちへの励ましの言葉などがあったからのことです。ありがとうございました。

さて、「朱に交われれば赤くなる」という諺をご存知の方も多いと思います。これは、「『朱』の中に入れると、どんなものでも赤く染まる」ところから、人は周りの友達に影響されて、良くもなり悪くもなるという意味です。

今回の学芸会への取り組みで考えてみましょう。本校には、400名以上の子供たちがいますが、全員が「演技することが好き!」「歌うことが得意!」というわけではありません。中には、大勢の前で大きな声を出すことが恥ずかしい子や、歌が苦手という子もいます。けれども、練習期間に、堂々とした演技をする友達を見て「自分もがんばってやってみよう」と勇気を出したり、台詞だけでなく様々な動きを工夫している友達を見て「自分も台詞のないときの動きを工夫してみよう」と思ったりして、みんなで練習を重ねてきたのです。これは、いい意味での「朱に交われれば赤くなる」です。つまり、学芸会に関して、前向きで得意な子供たちが、苦手な友達をリードしたのです。そして、共にがんばることで、学年の絆を深め、心地よい達成感を共有したのです。

これとは反対に、友達に影響されてついつい悪いことをしてしまうことや、集団のまとまりが弱いと、伸びようとする良い芽を摘んでしまうことも、学校生活では起こる可能性があります。例えば、たくさんの学年の友達が、だれかに意地悪をしていたとき、周りの子がやっているからということで、自分もふざけ半分でやってしまう...というようなことです。悪い意味で、朱に交わり赤くなってしまったのです。

「練馬区におけるいじめ対応の基本姿勢と現状」において述べられている、「どの学校でもいじめは起こりうる」との認識は、集団の性質によって、子供たちの行動や気持ちが変化しやすいことからきています。11月は、「ふれあい(いじめ防止強化)月間」でした。この月は、重点的にいじめなどをなくしていこう、そして行動していこうという月です。立野小学校でも、全校児童を対象に「学校生活アンケート」を実施し、気になる児童の記述に関しては、担任が聴き取り、その後、指導を行いました。また、個人で「いじめ防止標語」を作ったり、学級単位で、代表委員会主催の「仲間を増やそうキャンペーン」に参加したりしています。

このような活動を通して、前向きで心温かな学校、学年、学級創りに努めるとともに、いじめ防止に向けては、みんながやっても、「ダメなものはダメ」という、強い心を育てていきたいと考えています。ご家庭のご協力をお願いいたします。